

精神科医療現場での 医療通訳について

医療通訳研究会(MEDINT)代表
スペイン語通訳
村松 紀子

医療通訳研究会の成り立ち

医療通訳者の立場から、医療通訳の制度化を目指して2002年に設立された。

主な活動は、医療通訳者研修(医療・言語英中西
ポベ分科会)、啓発活動(シンポジウム)、医療通訳
者に関する研究など。

医療通訳者の当事者団体としての活動が中心。
外国人医療を考える看護部会が2009年に発足。

現在は医療通訳士協議会(JAMI)の医療通訳士倫
理ワーキンググループに参加

医療通訳の使命

医療現場におけるあらゆるコミュニケーショ
ンバリア(言語障壁)を解消し、患者の治療・
回復を医療スタッフの一員として支援する
こと

医療通訳者の属性

- 1 : 医療資格を持つ日本語母語通訳者
- 2 : 会議通訳などプロ通訳訓練を受けた
日本語母語通訳者
- 3 : 外国人支援をツールとする日本語母
語通訳者
- 4 : 医療資格を持つ外国語母語通訳者
- 5 : 日本語バイリンガルの外国語母語通
訳者

医療通訳者の特性

- ・ 前向きな使命感や献身的な思い、責任感、
義務感の強い人が多い
- ・ 他人に喜ばれることを価値の基準にする人
が少ない
- ・ 人を助けることには慣れているが、助けら
れることに慣れていない
- ・ ヒューマニズム・ボランティアは職業ではな
いことの矛盾

精神疾患場面での医療通訳

- 1 : 統合失調症の通訳事例
- 2 : 病気を認めない患者の事例
- 3 : 子供を困い込む患者の事例
- 4 : 日本人配偶者の発病相談の事例
- 5 : 病気の境界線

補足 : 阪神大震災とこころ

医療通訳者のストレスを理解する

- ・ 医療通訳者は医学的な訓練を受けていないことがある
- ・ 医療現場におけるつらい場面(告知・絶望・別れ・死など)に遭遇する
- ・ 視覚的にもショックな場面に遭遇することもある
- ・ 現場で受けた精神的・情緒的な疲労感は回復が難しい
- ・ 精神疾患の通訳場面では「非論理的」な言葉を発する

医療通訳者の二次受傷

- ・ 医療通訳は言葉を訳すだけなので、言葉を頭の中に残すことも、ケースに踏み込むこともあり得ないはず
- ・ しかし、医療通訳者が重篤な精神疾患の通訳をした際に、外傷性ストレス反応を起こすことがある
- ・ 医療通訳者が支援者・同国人・友人となる場合、患者との距離が近くなることもある
- ・ 医療通訳者のこうした苦しみは仕事特有のものであり、この仕事をする限りは避けては通れないもの

最後に

医療通訳は心を持つ道具です

- ・ 医療通訳者は患者の回復を目的として行動します。
- ・ 通訳の原則は正確に訳すことです。
- ・ この道具を上手に使ってください。
- ・ しかしこの道具は心を持っています。
- ・ 母語のできる通訳者は患者に感情移入をしてしまうことあれば、板挟み、孤立することもあります。
- ・ 精神疾患のような難しい病気については医療者との連携が不可欠です。

医療通訳研究会 (MEDINT)

<http://medint.jp>

通訳を利用するだけでなく、
ともに患者にかかわるものとして
理解をしてください